

校長室の窓から No.47

☆☆☆☆☆五城目町立五城目小学校 校長室だより 平成29年5月2日(火)

7日は開校記念日～創立143周年～

○創立(143周年)
明治7年5月7日
○児童数 280名
(H29.5.1日現在)
○教職員数 44名
文責:校長 戸部 裕隆



※スマートフォン
からもご覧に
なることが
できます。

森山周辺の新緑が美しい季節となりました。明日からはゴールデンウィーク後半が始まりますが、7日は本校の開校記念日になります。創立100周年を記念して発刊された「五小一世紀」によれば、本校は秋田県で26番目という早い時期の創立でした。また、校舎は4回、場所を移転しています。

記念日を控え、開校当時の様子をうかがい知ることができる部分を一部抜粋して紹介します。

【五城目町のほこり すばらしい先輩たち 二】(平成5年1月31日発行 町教育委員会 P24～P26)

明治5年(1872)8月、政府は「すべての国民は学校で教育を受けなければならない」というきまりを出しました。これを「学制発布」といいます。学制発布によって、子どもたちが学校で受けなければならない教育を義務教育といっています。今は、小学校の6年間と中学校の3年間の9年間が、これに当たります。

五十目村(今の五城目町本町)では、学制発布から2年後の明治7年5月に学校をはじめました。名前は「森嶽(しんがく)学校」といいます。「森嶽」というのは、「森山」という意味です。この学校が、今の五城目小学校のはじまりです。

このあと、8年に馬場目村の薫陶(くんとう)学校、内川村の湯又(ゆのまた)学校、9年に富津内村の環山(かんざん)学校・登美多学校・鶴湯(つるのゆ)学校、馬川村の高崎学校、大川村の大川学校、10年には馬場目村の中村学校がつくられました。

このあたりの村々で、一番早いのが森嶽学校でしたが、最初は小池町の松浦三郎兵衛の家の、それまで開いていた寺子屋を学校にしました。その次の年には古川町に学校がうつりました。そこは、泉谷力治が寺子屋を開いていたところで、それまでよりも広い校舎になりました。

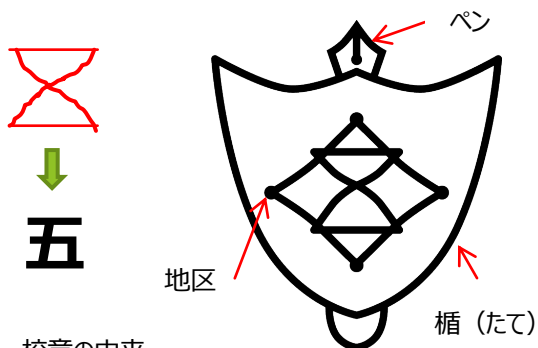
しかし、ここも手狭になったので、10年(1877)には紀久栄町に新しく校舎を建ててうつりました。村の名前がついた五十目小学校に校名が変わったのは明治15年でした。

五城目小学校だけでなく、他の小学校のはじまりも同じようなありさまで、お寺や神社、郷倉、村の大きな家を使って、学校をはじめています。ですから、義務教育の最初の学校は、江戸時代からつづいていた寺子屋と、そんなに変わらないものでした。

【五小一世紀】(昭和49年12月25日発行 五城目小学校記念誌編集委員会 P129ページより)

校名の「森嶽」は、「しんがく」と読むのか、「もりたけ」と読むのか、今となっては不明である。

～中略～もし力治の案とすれば、それは「森山」という意味で～その山の名を、学校の名前にしたのであるが、特別な漢字を用い、漢学者であった力治が出した案だとすれば、音読して「しんがく」学校と読んだのではないかと推測される。



— 校章の由来 —

1922年(大正11年)10月30日学制発布50周年を記念して制定したもので、記念式の日発表されました。ペンは文を、楯は武を、八つの点は付近の町村(現在は、地区)を表し、中央の文字は五城目の意味であるそうです。この付近の中心校という誇りが、校章に込められています。また、そのとき、校旗も制定されています。

1872年 学制発布

1874年 森嶽学校(小池町)

1875年 移転①(古川町へ)

*寺子屋「愛顧堂」森嶽塾、白水塾とも呼ばれていた泉谷力治氏の家の一部を使用。

1877年 移転②(紀久栄町へ)

1882年 五十目小学校

*校長職がはじまる。初代校長 平野貞幹氏

1887年 五十目尋常小学校

1891年 五十目尋常高等小学校と改称

移転③(新畑町へ)

1896年 町制施行。五城目尋常高等小学校となる。

1941年 五城目国民学校

1947年 五城目町立五城目小学校

1966年 現在地に校舎建築。

1967年 3月第1期工事教室等1棟竣工

1968年 3月第2期竣工 移転④(今町へ)

11月第3期竣工。12月校舎建築竣工式。

1974年 創立100周年記念式典